

2020 年度実施概要

学校名

気仙沼市立大谷幼稚園

採択活動名

おおやっこ 海のお宝大作戦！

～地域素材を生かした体験と、幼児の気付きから広がる遊びを通して～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1.		
2.		
3.		

取り組みの概要

◎主な保育実践

(1) 【うみだいすき！～大谷・地域のお宝を見つけよう～】

- ・ 5月27日(水) 地元で捕れた魚観察
- ・ 6月9日(火) 「うみのようちえん」(日門漁港見学…年長児)
まんぼうの解体見学・試食
- ・ 6月22日(月) 沼尻海岸散策(年長児親子)
- ・ 10月2日(金) 沼尻海岸散策(全園児)
- ・ 10月16日(金) 秋の園外保育(全園児)
(大島散策, シャークナゲット, 鱈ちゃんコロッセ試食…全園児)

ウミウシを嬉しそうに
触る幼児の姿

箱メガネで真剣に探す

- ・ 沼尻海岸散策(6月・10月)

今年度は沼尻海岸での散策活動を取り入れた。沼尻海岸ではウミウシやカニ、ヒトデ、ウニ、ヤドカリ等、豊富な生き物との出会いがあった。石をどかすと幼児でも簡単に生き物を見つけることができ、どの幼児も夢中になって生き物採集をおこなった。「お宝探してみたいだね」「おもしろい」とつぶやく幼児の姿が見られた。

- ・ 日門漁港見学(6月)

「日門網」と突きん棒「第八宝洋丸」の皆さんにご協力いただき獲れた魚と船上見学をさせていただいた。当日は大きなマンボウが獲れ、目の前でさばいてもらい、園に帰ってから試食を行った。命のつながりを感じ、大事そうに食べる姿が印象的だった。



マンボウを見つめる姿

(2) 【うみのことであそぼう！～自分たちだけの海を作ろう～】

- ・ 6月9日(火)～日門ごっこ(制作遊び, ごっこ遊び)
- ・ 6月23日(火)～沼尻ごっこ(制作遊び, ごっこ遊び)
- ・ 7月17日(金)「きらきら!海のお宝夏まつり」
- ・ 9月26日(土)「きらきら!海のお宝運動会」

- ・ 日門ごっこ(突きん棒ごっこと日門網ごっこ)(6月～)

日門漁港見学から帰ってきた幼児は、すぐに「突きん棒つくりたい」とつぶやいた。幼児の思いをくみ取りながら材料を準備すると、自分たちで話し合っ制作を進める姿が見られた。進める中で「メカジキの本当の大きさとどのくらいなの」「本物くらいのおおきなものを作りたい」などと話す姿が見られたため、図鑑やメジャーも準備した。

自分たちで作った大きな
メカジキを釣り上げる瞬間

そのことを知った保護者からの協力もあり、本物のメカジキの「フン」も園内で観察し、制作とごっこ遊びに役立てることができた。

(3) 【うみのものをたべよう！～宝物を変身させて食べよう～】

- ・ 7月 6日 (月) 「寒天実験をしよう」(寒天ゼリー作り…年長)
- ・ 7月 7日 (火) 七夕誕生会 (寒天ゼリーの試食)
- ・ 9月 1日 (火) 岩井崎の塩を使ったきゅうりもみ作り (年長児)
- ・ 11月 5日 (木) 道の駅見学 (鮭の購入…年中児・年長児)
- ・ 11月13日 (金) つみれ汁会食 (つみれ汁作り…年長児)
- ・ 1月14日 (木) 「かまぼこを作ってみよう」(年長児)
- ・ 1月15日 (金) かまぼこ入りお雑煮の会食 (繭玉作り)



本物と背比べをして大きさを実感する姿

- ・ つみれ汁づくり (11月)

前日に自分たちで道の駅大谷海岸を訪れ鮭の注文を行った。その鮭を園内で目の前でさばいてもらおうと「すごい」「ここが赤いと新鮮な証拠」などと興味津々で見ている。その後はつみれを自分たちで作って食べた。とても大事そうに食べる姿が印象的だった。



つみれを嬉しそうに食べる姿

◎成果と課題

(1) 成果

- ・今年度も大谷地区の環境を生かしながら活動を行うことができた。幼児は地域の海で見つけた自然物を「宝物」と呼び、そのイメージは、1年を通して大切にしながら活動を展開することができた。日門漁港で出会った漁師さんになりきる幼児の姿や、「沼尻には宝物がいっぱいなんだよ」などつつぶやく幼児の姿から、この気持ちが土台となって、自分の住む地域を愛する気持ちにつながっていくもの考える。
- ・体験活動については新型コロナウイルスの影響により、全園児での活動が難しい場面もあった。そのことから、年長のみで取り組んだものも、写真などを活用して全園児で共有し、「伝え合う」活動を大切にした。そのことが海に対するイメージを膨らませたり、自分たちなりの遊びに発展させたりして、「もっと知りたい」「もっと遊びたい」という好奇心や探求心を高めたりするきっかけになっていった。幼児の気付きを丁寧に広げていくことで、学びや活動が大きく広がっていくことを感じた。
- ・「海と食」というつながりでは、日門で捕れたマンボウを目の前でさばいてもらい、食べる体験をしたり、自分たちが大切に作った梅ジュースを組み合わせた梅寒天作りをしたり、シャークナゲットや鱈ちゃんコロケの試食等を通して「海のものっておいしいね」「だいすきだね」「大事に食べたいね」などという気持ちが育まれていったことが感じられた。

(2) 課題

- ・来年度も継続して大谷の地域を生かした活動を行うために、活動の意味づけを考慮した上での地域素材の生かし方や、新たな地域の魅力について、教員同士でさらに練っていききたい。

活動中の写真

デジタルデータにて2～3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)